



## 基本的なデバイス管理

---

この章で説明する内容は、次のとおりです。

- 基本的なデバイス管理について, [on page 1](#)
- 基本的なデバイス パラメータのデフォルト設定, [on page 2](#)
- デバイスのホスト名の変更, [on page 2](#)
- MOTD バナーの設定, [on page 3](#)
- タイム ゾーンの設定, [on page 5](#)
- 夏時間の設定, [on page 6](#)
- デバイス クロックの手動設定, [on page 7](#)
- クロック マネージャの設定 (8 ページ)
- ユーザーの管理, [on page 9](#)
- デバイス コンフィギュレーションの確認, [on page 10](#)

## 基本的なデバイス管理について

ここでは、基本的なデバイス管理の概要について説明します。

### デバイスのホスト名

コマンドプロンプトに表示されるデバイスのホスト名を、デフォルト (switch) から別のストリングに変更できます。デバイスに固有のホスト名を付けると、コマンドラインインターフェイス (CLI) プロンプトからそのデバイスを容易に特定できます。

### Message-of-the-Day バナー

Message-of-The-Day (MOTD) バナーは、デバイス上でユーザログインプロンプトの前に表示されます。このメッセージには、デバイスのユーザに対して表示する任意の情報を含めることができます。

## デバイス クロック

デバイスを NTP クロック ソースなどの有効な外部の時間調整機構と同期させない場合は、デバイスの起動時にクロック タイムを手動で設定できます。

## クロック マネージャ

Cisco NX-OS デバイスには、同期が必要になることがある、異なるタイプのクロックが含まれている可能性があります。これらのクロックはさまざまなコンポーネント（スーパーバイザ、ラインカードプロセッサ、ラインカードなど）の一部であり、それぞれ異なるプロトコルを使用している可能性があります。

クロック マネージャには、これらの異なるクロックを同期する機能があります。

## タイム ゾーンと夏時間

デバイスのタイムゾーンと夏時間を設定できます。これらの値により、クロックの時刻が協定世界時 (UTC) からオフセットされます。UTCは、国際原子時 (TAI) をベースにしており、うるう秒を定期的に追加することで地球の自転の遅れを補償しています。UTCは、以前はグリニッジ標準時 (GMT) と呼ばれていました。

## ユーザ セッション

デバイス上のアクティブなユーザセッションを表示できます。また、ユーザセッションにメッセージを送信することもできます。ユーザー セッションとアカウントの管理の詳細については、『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS Security Configuration Guide』を参照してください。

## 基本的なデバイス パラメータのデフォルト設定

次の表に、基本的なデバイス パラメータのデフォルト設定を示します。

**Table 1: デフォルトの基本的なデバイス パラメータ**

パラメータ	デフォルト
MOTD バナーテキスト	User Access Verification
クロック タイム ゾーン	UTC

## デバイスのホスト名の変更

コマンドプロンプトに表示されるデバイスのホスト名を、デフォルト (switch) から別のストリングに変更できます。

**SUMMARY STEPS**

1. **configure terminal**
2. **{hostname | switchname} name**
3. **exit**
4. (Optional) **copy running-config startup-config**

**DETAILED STEPS****Procedure**

	<b>Command or Action</b>	<b>Purpose</b>
ステップ 1	<b>configure terminal</b>  <b>Example:</b> <pre>switch# configure terminal switch(config) #</pre>	グローバル構成モードを開始します。
ステップ 2	<b>{hostname   switchname} name</b>  <b>Example:</b>  hostname コマンドの使用： <pre>switch(config)# hostname Engineering1 Engineering1(config) #</pre>  switchname コマンドの使用： <pre>Engineering1(config) # switchname Engineering2 Engineering2(config) #</pre>	デバイスのホスト名を変更します。name引数は英数字で、大文字と小文字が区別されます。デフォルトはswitchです。  <b>Note</b> switchname コマンドは、hostname コマンドと同じ機能を実行します。Cisco NX-OS リリース 7.0(3)I7(3)以降、スイッチ名の最大長 63 文字がサポートされています。
ステップ 3	<b>exit</b>  <b>Example:</b> <pre>Engineering2(config) # exit Engineering2#</pre>	グローバルコンフィギュレーションモードを終了します。
ステップ 4	(Optional) <b>copy running-config startup-config</b>  <b>Example:</b> <pre>Engineering2# copy running-config startup-config</pre>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

**MOTD バナーの設定**

ユーザーがログインするときに端末でログインプロンプトの後に MOTD が表示されるよう設定できます。MOTD バナーには、次の特徴があります。

- 1行あたり最大 255 文字
- 最大 40 行

## MOTD バナーの設定

### SUMMARY STEPS

1. **configure terminal**
2. **banner motd *delimiting-character message delimiting-character***
3. **exit**
4. (Optional) **show banner motd**
5. (Optional) **copy running-config startup-config**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	<b>Command or Action</b>	<b>Purpose</b>
ステップ 1	<b>configure terminal</b> <b>Example:</b> <pre>switch# configure terminal switch(config)#</pre>	グローバル設定モードを開始します。
ステップ 2	<b>banner motd <i>delimiting-character message delimiting-character</i></b> <b>Example:</b> <pre>switch(config)# banner motd #Welcome to the Switch# switch(config)#</pre>	MoTD バナーを設定します。メッセージテキストでは、区切り文字を使用しないでください。 <p><b>Note</b>  "または % は、区切り文字に使用しないでください。現在よりも後のリリースにアップグレードする場合は、この機能の制限を確認してください。</p> <p><b>Note</b>  Cisco NX-OS リリース 10.1(x) 以降では、特殊文字、"、%、&gt;、&lt;、' (スペース) 、および 0x15 よりも小さな ASCII 文字は、デリミタとして無効です。既存の MOTD バナーがこれらの区切り文字を含んでいて、それを編集した場合、またはこれらの区切り文字を含む新しいバナーを追加した場合、バナーは実行構成に含められません。</p> <p>以前のリリース (10.x リリースより前のリリース) から既存の 10.x リリースにアップグレードしても、CLI の構成には影響がなく、構成は実行構成でも同じになります。</p>
ステップ 3	<b>exit</b> <b>Example:</b> <pre>switch(config)# exit switch#</pre>	グローバルコンフィギュレーションモードを終了します。
ステップ 4	(Optional) <b>show banner motd</b> <b>Example:</b>	設定された MOTD バナーを表示します。

	<b>Command or Action</b>	<b>Purpose</b>
	switch# show banner motd	
<b>ステップ 5</b>	<p>(Optional) <b>copy running-config startup-config</b></p> <p><b>Example:</b> switch# copy running-config startup-config</p>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

## タイムゾーンの設定

UTC からデバイスのクロック時刻をオフセットするためにタイムゾーンを設定できます。

### SUMMARY STEPS

1. **configure terminal**
2. **clock timezone *zone-name offset-hours offset-minutes***
3. **exit**
4. (Optional) **show clock**
5. (Optional) **copy running-config startup-config**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	<b>Command or Action</b>	<b>Purpose</b>
<b>ステップ 1</b>	<b>configure terminal</b>  <b>Example:</b> switch# configure terminal switch(config)#	グローバル設定モードを開始します。
<b>ステップ 2</b>	<b>clock timezone <i>zone-name offset-hours offset-minutes</i></b>  <b>Example:</b> switch(config)# clock timezone EST -5 0	タイムゾーンを設定します。 <i>zone-name</i> 引数は、タイムゾーンの略語 (PST や EST など) である 3 文字の文字列です。 <i>offset-hours</i> 引数は、UTC からのオフセット値であり、有効な範囲は -23 ~ 23 時間です。 <i>offset-minutes</i> 引数の範囲は、0 ~ 59 分です。
<b>ステップ 3</b>	<b>exit</b>  <b>Example:</b> switch(config)# exit switch#	グローバルコンフィギュレーションモードを終了します。
<b>ステップ 4</b>	(Optional) <b>show clock</b>  <b>Example:</b> switch# show clock	時間とタイムゾーンを表示します。

## 夏時間の設定

	Command or Action	Purpose
ステップ 5	(Optional) <b>copy running-config startup-config</b>  <b>Example:</b> switch# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

## 夏時間の設定

デバイスで夏時間有効にする時期と、オフセット（分単位）を設定できます。

## SUMMARY STEPS

1. **configure terminal**
2. **clock summer-time zone-name start-week start-day start-month start-time end-week end-day end-month end-time offset-minutes**
3. **exit**
4. (Optional) **show clock detail**
5. (Optional) **copy running-config startup-config**

## DETAILED STEPS

## Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	<b>configure terminal</b>  <b>Example:</b> switch# configure terminal switch(config) #	グローバル設定モードを開始します。
ステップ 2	<b>clock summer-time zone-name start-week start-day start-month start-time end-week end-day end-month end-time offset-minutes</b>  <b>Example:</b> switch(config)# clock summer-time PDT 1 Sunday March 02:00 1 Sunday November 02:00 60	夏時間設定します。  <i>zone-name</i> 引数は、タイムゾーンの略語（PST、ESTなど）である3文字のストリングです。  <i>start-day</i> 引数と <i>end-day</i> 引数の値は、 <b>Monday</b> 、 <b>Tuesday</b> 、 <b>Wednesday</b> 、 <b>Thursday</b> 、 <b>Friday</b> 、 <b>Saturday</b> 、および <b>Sunday</b> です。  <i>start-month</i> および <i>end-month</i> 引数の値は <b>January</b> 、 <b>February</b> 、 <b>March</b> 、 <b>April</b> 、 <b>May</b> 、 <b>June</b> 、 <b>July</b> 、 <b>August</b> 、 <b>September</b> 、 <b>October</b> 、 <b>November</b> 、および <b>December</b> です。  <i>start-time</i> および <i>end-time</i> 引数の値は、 <i>hh:mm</i> フォーマットです。  <i>offset-minutes</i> 引数の範囲は、0～1440分です。

	<b>Command or Action</b>	<b>Purpose</b>
ステップ3	<b>exit</b>  <b>Example:</b> <pre>switch(config)# exit switch#</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ4	(Optional) <b>show clock detail</b>  <b>Example:</b> <pre>switch(config)# show clock detail</pre>	設定された MOTD バナーを表示します。
ステップ5	(Optional) <b>copy running-config startup-config</b>  <b>Example:</b> <pre>switch# copy running-config startup-config</pre>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

## デバイス クロックの手動設定

デバイスがリモートの時刻源にアクセスできない場合、クロックを手動で設定できます。

### Before you begin

タイム ゾーンを設定します。

#### SUMMARY STEPS

1. **clock set time day month year**
2. (Optional) **show clock**

#### DETAILED STEPS

##### Procedure

	<b>Command or Action</b>	<b>Purpose</b>
ステップ1	<b>clock set time day month year</b>  <b>Example:</b> <pre>switch# clock set 15:00:00 30 May 2013 Fri May 30 15:14:00 PDT 2013</pre>	デバイス クロックを設定します。  <i>time</i> 引数のフォーマットは <i>hh:mm:ss</i> です。 <i>day</i> 引数の範囲は 1 ~ 31 です。 <i>month</i> 引数の値は <b>January</b> 、 <b>February</b> 、 <b>March</b> 、 <b>April</b> 、 <b>May</b> 、 <b>June</b> 、 <b>July</b> 、 <b>August</b> 、 <b>September</b> 、 <b>October</b> 、 <b>November</b> 、および <b>December</b> です。 <i>year</i> の引数の範囲は 2000 ~ 2030 です。
ステップ2	(Optional) <b>show clock</b>  <b>Example:</b>	現在のクロック値を表示します。

## クロック マネージャの設定

Command or Action	Purpose
switch(config)# show clock	

# クロック マネージャの設定

Cisco Nexus デバイスのコンポーネントのすべてのクロックを同期するように、Clock Manager を構成できます。

## 手順の概要

1. **clock protocol protocol**
2. (任意) **show run clock\_manager**

## 手順の詳細

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>clock protocol protocol</b> 例： switch# clock protocol ntp	クロック マネージャを設定します。 protocol 引数の値は <b>ntp</b> 、 <b>ptp</b> 、および <b>none</b> です。 次に、値について説明します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>ntp</b>：クロックとネットワーク タイム プロトコル (NTP) を同期します。</li> <li>• <b>ptp</b>：IEEE 1588 で記述されているとおりに、クロックを高精度時間プロトコル (PTP) と同期します。</li> <li>• <b>none</b>—<b>clock set HH:MM:SS</b> を使用します スーパーバイザ クロックを設定します。            (注)  <b>none</b> を使用する場合は、クロックを構成する必要があります。         </li> </ul> (注) プロトコルが構成されたら、クロックはそのプロトコルを使用する必要があります。
ステップ 2	(任意) <b>show run clock_manager</b>  例： switch# show run clock_manager	クロック マネージャの設定を表示します。

# ユーザーの管理

デバイスにログインしたユーザの情報を表示したり、それらのユーザにメッセージを送信したりできます。

## ユーザセッションに関する情報の表示

デバイス上のユーザセッションに関する情報を表示できます。

### SUMMARY STEPS

1. **show users**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ1	<b>show users</b> <b>Example:</b> <pre>switch# show users</pre>	ユーザセッションを表示します。

## ユーザーへのメッセージ送信

デバイス CLI を使用して、現在アクティブなユーザにメッセージを送信できます。

### SUMMARY STEPS

1. (Optional) **show users**
2. **send [session line] message-text**

### DETAILED STEPS

#### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ1	(Optional) <b>show users</b> <b>Example:</b> <pre>switch# show users</pre>	アクティブなユーザセッションを表示します。

## ■ デバイス コンフィギュレーションの確認

	Command or Action	Purpose
ステップ 2	<b>send</b> [session line] message-text <b>Example:</b> <pre>switch# send Reloading the device is 10 minutes!</pre>	すべてのアクティブなユーザまたは特定のユーザにメッセージを送信します。このメッセージは最大80文字の英数字で、大文字と小文字が区別されます。

## デバイス コンフィギュレーションの確認

構成を確認するためには、次のいずれかのコマンドを使用します。

コマンド	目的
<b>show running-config</b> [ <b>[exclude]</b> <i>command</i> ] [ <b>[sanitized]</b> ]	<p>現在の実行コンフィギュレーションまたはそのコンフィギュレーションのサブセットの内容を表示するには、該当するモードで <b>show running-config</b> コマンドを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>exclude</b> : (任意) 特定のコンフィギュレーションを表示から除外します。</li> <li>• <b>exclude</b> キーワードのあとに <i>command</i> 引数を指定し、表示から特定のコンフィギュレーションを除外します。</li> <li>• コマンド : (任意) 1つのコマンドのみを、または指定のコマンドノード下で使用可能なコマンドのサブセットを表示します。</li> <li>• <b>sanitized</b> : (任意) 安全な配布と分析のためにサニタイズされたコンフィギュレーションを表示します。</li> </ul> <p>Cisco NX-OS リリース 10.3(2)F 以降、<b>sanitized</b> キーワードが Cisco Nexus 9000 シリーズ スイッチでサポートされています。</p>
<b>show startup-config</b>	<p>スタートアップ コンフィギュレーションを表示します。</p> <p><b>Note</b>            レイヤ 3 ベースの機能構成が running-config で無効になっている場合、<b>show startup-config</b> コマンドはそれらを表示しません。ただし、<b>copy running startup</b> コマンドが実行されるまで、構成はスタートアップ PSS にそのまま残ります。</p>
<b>show time-stamp running-config last-changed</b>	実行構成が最後に変更されたときのタイムスタンプを表示します。

次に、**show running-config** コマンドで **sanitized** キーワードを指定した場合の出力例を示します。サニタイズされた構成は、構成の一部の詳細を公開せずに、構成を共有するために使用できます。

このオプションは、実行構成出力の機密ワードを **<removed>** キーワードによりマスクします。

```
switch# show running-config sanitized

!Command: show running-config sanitized
!Running configuration last done at: Wed Oct 12 09:14:54 2022
!Time: Wed Oct 12 13:52:55 2022

version 10.3(2) Bios:version 07.69

username admin password 5 <removed> role network-admin

copp profile strict
snmp-server user admin network-admin auth md5 <removed> priv aes-128 <removed>
localizedV2key
rmon event 1 log trap <removed> description FATAL(1) owner PMON@FATAL
rmon event 2 log trap <removed> description CRITICAL(2) owner PMON@CRITICAL
rmon event 3 log trap <removed> description ERROR(3) owner PMON@ERROR
rmon event 4 log trap <removed> description WARNING(4) owner PMON@WARNING
rmon event 5 log trap <removed> description INFORMATION(5) owner PMON@INFO
--More--
```

## ■ デバイス コンフィギュレーションの確認

## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。